

東京都立墨田川高等学校 令和5年度学校経営報告

[文中にパーセンテージで示した数値は、特に断りのない場合は、学校評価アンケート（生徒対象）において「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的に回答した生徒の割合を合計したものである。]

▼ 令和5年度の取組目標等における自己評価と次年度以降の改善の方向性

(1) 学習指導

- 授業満足度は、74.3%と昨年度並みであったが、授業を基本とした予習→授業→復習の「学習サイクル」に「自発的学習」を加えた「学びのサイクル」の定着は41.7%と低調であった。教科等を中心にして成績上位者の課題の分量の精選を図るなど、主体的な学習を促す工夫に向けて不断の授業改善を継続して実践していく必要がある。
- 大学入学共通テスト得点率7割以上の3年次生の割合は12.4%で、昨年度比微増であったが、目標値には届かなかった。習熟度別授業や少人数指導、長期休業中の講習等の一層の充実を図り、国公立大学合格者数の目標達成に向け組織的に取り組んでいく。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現や授業におけるICT及び一人1台端末等の活用については各教科で工夫がみられるが、教員間の取組に若干の差異があるのが課題である。
- 授業や進路指導における一人1台端末は、活用が図られつつある。大学入学共通テストにおける新教科「情報」の指導については次年度早急に計画を立てるべき課題である。
- 図書館リニューアルの効果もあり、早朝や放課後の自習室利用者が各年次生徒毎日20名程度の利用が定着している。うち約半数以上の生徒が模擬試験の結果の向上が見られ学習習慣の定着が成績向上にも効果があることが実証された。今後、更なる新規利用生徒数の増加に向け啓発を行っていく。

▼ 数値目標（アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合）

項 目	4年度実績	5年度目標	5年度実績
学校評価アンケート①で「墨田川の授業の進度やレベルは、自分に合っていて学力向上につながり満足している」とする生徒の割合	74.0%	80%以上	74.3%
学校評価アンケート②で「墨田川の授業は進学や受験に役立つ内容となっているものが多い」とする生徒の割合	76.7%	80%以上	77.0%
学校評価アンケート④で「予習→授業→復習の「学習サイクル」に「自発的学習」を加えた「学びのサイクル」が定着している」とする生徒の割合	37.9%	50%以上	41.7%
大学入学共通テストで7割以上得点した3年次生の割合	11.9%	25%以上	12.4%

(2) 進路指導

- 今年度新設した面談週間を活用すること等により、国公立大学志望者等に対し、最後まで諦めさせない指導や、長期休業中の講習や放課後の補習等の指導の継続を行ったが、旧課程最後の入試での安全志向や受験校数を絞る動きもあり、現役合格者数は、国公立大学（大学校含む）20名、難関私立大学延べ数10名、GMARCH延べ数53名にとどまった。今後、より高い目標校を最後まで志望させる指導を行うことや生徒個々の志望校を把握し継続して寄り添う指導を実践する組織的な体制を構築することが必要である。
- 進路指導の情報提供満足度は78.6%、進路面談指導満足度は83.2%で、進路面談満足度は、昨年度比約4ポイント増加した。特に3年次生の満足度は88.6%を達成した。組織的できめ細かな面談指導が行われた成果である。
- 長期休業中、放課後、土曜日を活用した講習、補習等を106講座開講し、受講生徒延べ約2500名に達した。都教育委員会による「校内予備校」は英語、数学、国語の3教科で37講座を開講し、受講応募者延べ174名であった。次年度は、年間を通した計画的な実施が必要や1、2年次生を対象とした講習の充実が必要である。
- 大学入試説明会や大学模擬講義等の進路行事、選択科目説明、面談週間など進路意識の高揚を図る取り組みを推進したが、生徒が主体的に学問的興味関心を高める「総合的な探究の時間」との連関による3年間を見据えた進路指導の充実が課題である。
- プレ第一志望宣言を2年次2月に実施した。より早い志望校決定に向け2年次秋以降の進路指導の充実を図ることが課題である。
- 新設した探究推進部が中心となって実施した千葉大学との連携による大学訪問や地域教育支援部との連携による「職業人インタビュー」により「総合的な探究の時間」の充実を図ったことは大きな成果である。その結果、探究活動満足度は、67.4%と昨年度比約4ポイント増加した。特に、1年次生の「職業人インタビュー」は初めての実施で課題もあったが、七高祭での発表は生徒・保護者に好評で1年次生の探究活動満足度は80.7%と突出して高かった。反面、2年次の千葉大学との連携による探究活動は、大学教授の来校による指導延べ16回、ティーチングアシスタント延べ148名が来校し指導を行ったが、満足度50.2%とやや低調であった。次年度に向けて「問い」の立て方や具体的な指導方法、発表内容や時期等について改善を図る。探究の成果を活用した総合型選抜の受験生徒の増加と指導の充実は課題である。
- 海外学校間交流推進校の指定を受け、大使館訪問や千葉大学の留学生との交流会、講演会等の国際教育を積極的に展開した。また、次年度7月にシンガポールで海外姉妹校交流与語学研修を実施する計画を策定した。シンガポール語学研修の説明会には、64名が参加し37名が参加を申込んだ。次年度も活発な国際教育を推進していく。
- 英語4技能伸長は、2年次生の英検全員受験を実施し、合格者は2級が57名、準2級が110名と着実に進展がみられた。今後は、合格者数の更なる向上に向けて指導の充実改善を図っていく。

▼ 数値目標（アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合）

項 目	4年度実績	5年度目標	5年度実績
国公立大学（大学校含む）現役合格者数	19名	25名以上	20名
難関私立大学（早慶上理）現役合格者のべ数	16名	20名以上	10名

私立大学（GMARCH）現役合格者のべ数	94名	100名以上	53名
学校評価アンケート⑦で「墨田川では進路を考える際に必要な情報を生徒や保護者に適切に提供している」とする生徒の割合	78.3%	80%以上	78.6%
学校評価アンケート⑥で「墨田川では探究活動などで生徒が将来の生き方について主体的に考えるよう指導している」とする生徒の割合	63.8%	65%以上	67.4%
学校評価アンケート⑮で「墨田川では国際交流の推進に力を入れている」とする生徒の割合	18.5%	30%以上	37.2%

(3) 生活指導・特別活動

- 生徒の学校生活満足度は83.2%で、昨年度より僅かに増加した。生徒による自主的・主体的活動に関する肯定的評価は84.4%と昨年度よりも微増であったが、僅かに目標値を達成できなかった。今後も、生徒が自主的・自発的な活動が行えているという実感と充実感を得ることにより、生徒の学校生活の満足度をより高められるよう生徒指導部と年次担任団が連携して指導を工夫改善していく。
- 生活指導の徹底に関する肯定的回答は生徒83.2%、保護者85.0%と高かったが、生活指導の理解や納得に関する肯定的回答は保護者の77.2%に対し、生徒51.3%であった。今後、校則のあり方について、生徒会を中心に生徒の意見集約を行い、生徒が自律的に行動できるよう見直していくとともに、生徒に任せてやらせてみる指導への転換を模索しながら、本校のあるべき生活指導について教員間で協議を進めていく。
- 学校行事満足度は、生徒91.9%、保護者96.1%と肯定的回答が非常に高かった。体育祭、七高祭、合唱祭の三大行事のほか、2年次生修学旅行、校外学習等の学校行事も新型コロナウイルス感染症感染拡大前と同等に実施できた。今後も、本校の重要な特色の一つとして活性化を図っていく。
- 部活動の満足度は、生徒・保護者とも85%程度と昨年度より増加した。「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく活動への生徒・保護者の理解を得ながら、学習との両立に向けた指導を行っていく。
- 墨水会、美汀会等との連携は円滑に進み、創立百周年記念事業の一つとしての図書館リニューアルや美汀会の学校教育協力支援による物品寄贈が行われた。今後も、よりよい連携について協力を依頼していく。

▼ 数値目標（アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合）

項目	4年度実績	5年度目標	5年度実績
学校評価アンケート⑳で「墨田川での学校生活は充実している」とする生徒の割合	81.7%	85%以上	83.2%
学校評価アンケート⑭で「墨田川では学校行事や生徒会、部活動等で、生徒による自主的・自発的な活動が行われている」とする生徒の割合	83.6%	85%以上	84.4%

学校評価アンケート⑨で「墨田川では、服装、挨拶、遅刻の防止、通学時のマナー等の生活指導が徹底されている」とする生徒の割合	80.8%	85%以上	83.2%
学校評価アンケート⑩で「墨田川の生活指導は、生徒の理解や納得が得られている」とする生徒の割合	47.6%	50%以上	51.3%
学校評価アンケート⑫で「墨田川では、体育祭や七高祭などの学校行事が活発で充実している」とする生徒の割合	90.3%	85%以上	91.9%
学校評価アンケート⑬で「墨田川では、部活動が活発で充実している」とする生徒の割合	81.7%	85%以上	85.1%

(4) 健康・安全教育指導

- 特別支援に関する委員会を20回開催するとともに、ケース会議や教員研修などを複数回実施するとともに、生徒の心身の不調が表れる時期と原因を分析し、予防的措置の一つとして、9月末に3年次生を対象とした「ストレスマネジメント講座」を実施するなど健康教育を効果的に推進した。その結果、相談体制に関する肯定的回答が生徒72.9%、保護者66.8%といずれも昨年度を上回った。特別支援委員会が中心となってスクールカウンセラーや児童相談所等関係機関との連携を積極的に推進した成果である。不登校等不適応生徒のケアは今後も継続した課題である。
- 「部活動に関する総合的なガイドライン」に基づく活動に理解を得ながら、学習との両立に向けた指導を行ってきたが、部活動を起因とした人間関係や心の不調による保健室利用者が一定程度存在することが課題である。今後も、学習と部活動等との両立を図る指導を継続していくとともに、部活動顧問や担任による丁寧な面談指導等により相談体制を行っていく。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	4年度実績	5年度目標	5年度実績
学校評価アンケート⑪で「墨田川では、悩みを相談できる相手や機会が適切に備わっている」とする生徒の割合	71.7%	70%以上	72.9%

(5) 生徒募集・広報活動

- 中進対第一志望調査の志望予定者数は358名(1.13倍)で目標を達成できなかったが、学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等による来校中学生は延べ2201名、塾指導者対象説明会を含めた来校保護者等は1595名といずれも目標値を上回った。
- 推薦に基づく選抜の応募人員は、199名(3.11倍)と目標値と昨年度を上回った。また文化・スポーツ特別推薦の応募者数は、合計22名と昨年度を上回り、すべての種目で倍率を回復した。
- 学力検査に基づく選抜の最終応募人員は、323名(1.28倍)と昨年度を下回った。今後、来校中学生等の個人別来校時期や回数等の調査結果等を分析し、進学重視型単位制

高校及び進学指導推進校の特色をより効果的に発信し、第一志望生徒の増加を図る。

- 学校ホームページは、昨年度のリニューアル完了を受け、今年度385回と大幅に更新回数を伸ばした。その結果、「学校公式ホームページが充実している」の肯定的回答は生徒65.9%、保護者74.3%と大幅に増加した。
- 今年度、学校見学会、学校説明会、自校作成問題対策会等を活用し、自校作成問題の利点や効果を積極的にPRしたが、志望者の増加には直接的につながらなかった。今後も粘り強くPRを継続し、自校作成問題の出題意図や試験対策の情報を充実させることにより、自校作成問題への理解を深め受験者数の増加を目指す。
- 校長による近隣学習塾訪問は他の校務の影響で実施できなかった。次年度は、本校の教育活動の特長をPRするために、積極的な近隣学習塾訪問を実施する。

(主な数値目標)

項目	5年度入試実績	6年度入試目標	6年度入試実績
東京都中学校長会進路対策委員会による志望予定(第1志望)調査の志望倍率	1.10倍	1.30倍	1.13倍
推薦に基づく選抜応募倍率	2.64倍	3.00倍	3.11倍
学力検査に基づく選抜最終応募倍率	1.27倍	1.50倍	1.28倍
学校見学会、学校説明会、自校作成問題ガイダンス、自校作成問題対策会、夏季休業中の学校見学会、放課後の学校説明会、塾対象説明会での来校中学生・保護者・教員等のべ数	中学生1989名 保護者・指導者等 1315名	中学生2200名 保護者・指導者等 1500名	中学生2201名 保護者・指導者等 1595名
学校評価アンケート⑨で「墨田川高校の公式ホームページは充実している」とする生徒の割合	43.8%	50%以上	65.9%

(6) 学校組織運営

- 分掌主任の主幹教諭等で組織する「学習指導・進路指導改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、年間19回の会議を実施した。学期制、定期考査回数、特進クラスの在り方、新教育課程の改訂等を検討し、新教育課程の改訂案を作成した。今後は、特進クラスのあり方なども含めて議論を深め、令和8年度入学生からの改善に向けて検討を進めていく。
- 服務事故防止研修を4回実施した。個人情報に対する意識向上や教育公務員としての服務の厳正について指導を徹底するとともに、体罰や服務事故の根絶を目指す研修を行った。
- 学校運営連絡協議会の協議委員や墨水会(同窓会)、美汀会(PTA)の各役員「墨田川ビジョン2025」をはじめとする校長の学校経営方針への理解と学校運営への協力は順調である。物品の寄贈や寄付、部活動への支援等は継続的に拡大している。
- 夏季休業明けの空調機の不調により、学校や都教育委員会への苦情が増加した。都の施設担当には、早急な個別空調への付け替えを強く要望していく。要望の多かったトイレ改修工事が次年度から2年間かけて実施されることとなった。工事中の不便さを最小限にするとともに安全への配慮を行っていく。

- 職員会議資料のペーパーレス化を端緒に業務の軽減と効率化を進め、コピー用紙購入量の約7%削減と会議時間及び会議準備時間の縮減を図った。
- 校内担当者の努力による都教育委員会の新たなシステムの円滑な稼働により、ITを活用した校務の一層の効率化に取り組んだ。システムの停止による校務への影響やインクや用紙代等のランニングコストの増加が大きな課題である。
- 保護者のライフ・ワーク・バランスの認知度は49.8%と昨年度比20%以上増加したことは成果であるが、当の教員の実現度は39.3%、相談できる環境についての肯定的回答53.6%は昨年度より増加したとはいえ数値として低く課題である。今後も引き続き、夏休の完全消化、学校閉庁日の完全実施等により、教職員のライフ・ワーク・バランス推進に向けた意識の高揚と男性職員の育業等休暇取得の促進に取り組んでいく。

▼ **数値目標** (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒又は保護者の割合)

項 目	4年度実績	5年度目標	5年度実績
一般需用費の学校経営支援センター契約集約の割合	46.6%	60%以上	55.8%
学校評価アンケート⑰で「墨田川の教室、特別教室や体育施設、校庭等施設・設備はよく整備されており、学習環境が整っている」とする生徒の割合	47.1%	50%以上	45.1%
学校評価アンケート⑳で「墨田川高校が、教員の働き方改革(ワークライフバランス)に取り組んでいることを知っている」とする保護者の割合	27.3%	30%以上	49.8%

以 上